

Newsletter of Japanese Coral Reef Society

No.39 [2008 / 2009 No.2]

contents

page

日本サンゴ礁学会第11回大会および公開シンポジウムのご案内	2-6
ICRS特集	7
NPO/NGO紹介 [沖縄リーフチェック研究会]	8
渡邊俊樹先生のご逝去を悼む	8

会 告

サンゴ礁学の新たな

日本サンゴ礁学会
第11回大会および公開シンポジウム

2008.11.22^{SAT} ▶ 11.24^{MON} 開催!
静岡「グランシップ」

皆様のご参加を
お待ちしております!

展開

ワークショップ 11/22 18:30~19:30

「サンゴ礁学の創成

—複合ストレス下の生態系と人の共生・共存未来戦略—

オーガナイザー: 茅根創、鈴木款、灘岡和夫、日高道雄、山口徹、山野博哉

サンゴ礁と人との共生の基礎科学(サンゴ-褐虫藻共生系、物質循環共生系)と、その変遷(歴史的变化)と未来像(応答予測)を示し、学融合としてのサンゴ礁学の創成に関して議論する。

2008年度総会の開催について

日本サンゴ礁学会2008年度総会を、下記の通り開催いたします。会員の皆様はご出席下さい。なお、総会に出席できない方は、本ニュースレターに同封いたしました委任状にご署名・捺印の上、郵送またはファックスにて事務局あて 11月11日(火)までにお送り下さるか、出席する会員に託して当日事務局の手元に届くようにして下さるようお願いいたします。(ご自身の氏名は必ず書き下さい。被委任者の欄が空白の場合は、総会議長に委任とします)。

日本サンゴ礁学会 会長 西平 守孝

2008年11月23日(日) 17時00分~18時30分 静岡グランシップ10階

■ 議事(案): 会計報告、監査結果報告、予算計画、各委員会報告、総会後、学会賞授賞式と受賞講演があります。

■ 事務局: 茅根 創

113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大・理・地球惑星 Fax: 03-3814-6358 メール: kayanne@eps.s.u-tokyo.ac.jp

日本サンゴ礁学会 第11回大会および公開シンポジウムのご案内

2008.11.22^{sat} ▶ 11.24^{mon}
S H I Z U O K A
http://www.soc.nii.ac.jp/jcrs/

》スケジュール

11月21日（金）

各種委員会・評議員会

11月22日（土）

8:30 - 9:20 開場、大会および PC データ受付
9:20 - 9:30 開会挨拶
9:30 - 12:00 口頭発表
12:00 - 13:00 昼食
13:00 - 14:00 ポスター発表
14:00 - 18:15 口頭発表
18:30 - 19:30 ワークショップ：「サンゴ礁学の創成
ー複合ストレス下の生態系と人の共生・
共存未来戦略ー」
(茅根創、鈴木款、瀬岡和夫、日高道雄、
山口徹、山野博哉)

11月23日（日）

8:00 - 8:30 開場、大会および PC データ受付
8:30 - 11:30 口頭発表
11:30 - 12:00 安全講習会、サンゴ礁保全委員会
(~ 13:00)
12:00 - 13:00 昼食
13:00 - 16:45 公開シンポジウム
17:00 - 18:30 総会、学会賞・川口賞授賞式および
受賞講演
19:30 - 21:30 懇親会

11月24日（月）

8:00 - 8:30 開場、大会および PC データ受付
8:30 - 12:00 口頭発表
12:00 - 13:00 昼食
13:00 - 14:30 口頭発表
14:30 - 15:30 ポスター発表
15:45 - 16:00 大会奨励賞発表および授賞式
16:00 - 18:00 ワークショップ：「やまと」のサンゴ・
サンゴ礁を調べる～環境変化の指標とし
ての高緯度サンゴ（中井達郎、杉原薫）

》総会

以下の日程で日本サンゴ礁学会総会が開催されます。

■ 日時：11/23 17:00 - 18:30 ■ 場所：静岡市 グランシップ

》安全講習会

■ 日時：11/23 11:30 - 12:00 安全講習会（座学）
11/23 12:00 - 12:30 安全講習会（実地講習）
■ 主催：安全委員会委員長 菅浩伸（岡山大学）

》サンゴ礁保全委員会

■ 日時：11/23 11:30 - 13:00 ■ 場所：10 階 102 室

》大会奨励賞

発表の形式によらず（口頭、ポスター）優れた成果を発表した
若手会員（学生を含む）に大会奨励賞を授与します。

■ 日時：11/24 15:45 - 16:00

》公開シンポジウム

『サンゴ礁再生への道』

■ 日時：平成 20 年 11 月 23 日（日）13:00 - 16:45

■ コンビナー：鈴木款（静岡大学）

■ 司会：中井達郎、日高道雄

- 13:00 - 13:05 挨拶：鈴木款（静岡大学）
1) 13:05 - 13:35 西平守孝（名桜大学）「サンゴ礁の保全と活用」
13:35 - 13:45 質疑応答
2) 13:45 - 14:15 瀬岡和夫（東京工業大学）
「サンゴ礁の保全・再生の統合管理とは」
14:15 - 14:25 質疑応答
14:25 - 14:35 休憩
3) 14:35 - 15:05 土屋誠（琉球大学）
「サンゴ礁再生とマクロの世界：具体例」
15:05 - 15:15 質疑応答
4) 15:15 - 15:45 鈴木款（静岡大学）
「サンゴ礁再生とミクロの世界：具体例」
15:45 - 15:55 質疑応答
5) 15:55 - 16:45
コメント（取り組みと今後の期待等）一人 5 分（PPT）
企業： 島田進司（三菱商事（株）環境・CSR 推進室長）
山本秀一（（株）エコ環境・計画部）
NGO： 安村茂樹（WWF ジャパン）
行政： 鹿熊信一郎（沖縄県八重山支庁農林水産整備課） 環境省（予定）
佐藤昭人（水産庁漁港漁場整備部）
マスコミ：松居径（NHK エンタープライズプロデューサー）
鳴谷隆（月刊『マリンドイビング』副編集長）
研究者：中野義勝（琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底実験所）

》ワークショップ

『サンゴ礁学の創成 ー複合ストレス下の生態系と人の共生・共存 未来戦略ー』（11/22 18:30 ~ 19:30）

オーガナイザー：茅根創、鈴木款、瀬岡和夫、日高道雄、山口徹、山野博哉

サンゴ礁と人との共生の基礎科学（サンゴー褐虫藻共生系、物質循環共生系）と、そ
の変遷（歴史的变化）と未来像（応答予測）を示し、学融合としてのサンゴ礁学の創
成に関して議論する。

【1. 共生系の基礎科学】

- 1-1. 複合ストレスに対するサンゴー褐虫藻共生系の応答
1-2. サンゴ礁生態系・物質循環共生系の素過程

【2. 共生系の変遷】

- 2-1. ストレスとサンゴ礁の歴史的变化
2-2. サンゴ礁ー人間共生系の景観史

【3. 共生系の未来像】

- 3-2. 地球温暖化に対するサンゴ礁の応答
3-3. 複合ストレスの包括的評価・予測とサンゴ礁生態系応答モデル解析

【4. 総括】 サンゴ礁学の創成、人材育成

『「やまと」のサンゴ・サンゴ礁を調べる～環境変化の指標として の高緯度サンゴ』（11/24 16:00 ~ 18:00）

オーガナイザー：中井達郎、杉原薫

高緯度域の造礁サンゴの 1) 系統分類学的特徴、2) 生態分布・群集構造とそれらの遷
移、3) サンゴ礁地形の形成とそのメカニズム、4) 造礁サンゴ骨格に記録された過去
から現在にかけての物理環境変遷、そして 5) 造礁サンゴ・サンゴ礁生態系の保全に
おける本土 NPO の役割について。

サンゴ礁学の
新たな展開!!

》大会プログラム

口頭発表

11月22日(土)

講演番号	講演時間	タイトル	発表者氏名(所属)
座長：中井達郎(国士館大学)			
1-01	9:30	海面上昇と国際法—水没する島の国際法上の地位に関する一考察	○中島明里・眞岩一幸(海洋政策研究財団)
1-02	9:45	島嶼環境の維持・再生に関する技術的方策について	○眞岩一幸・中島明里(海洋政策研究財団)
1-03	10:00	ツバル・フナフチ環礁のジオアーケオロジー：西ポリネシアと東ミクロネシアの文化的境界論への試論	○山口徹(慶應義塾大学)
1-04	10:15	ジュゴンなど海の神話・伝承にみるサンゴ礁保全論	○目崎茂和(南山大学・総合政策学部)・渡久地健(沖縄協会嘱託研究員)
1-05	10:30	日本のサンゴ礁被度の変遷—文献データの編集と分析—	○中尾有伸(北海道大学大学院)

休憩

座長：田中泰章(東京大学海洋研究所)

1-06	11:00	南西諸島生物多様性優先保全地域(BPA)におけるサンゴ礁浅海域での自然地理的ユニット(PGU)の応用	○中井達郎(国士館大学)・柴田剛(内外地図・現エアロフォトセンター)・山野博哉(国立環境研)・安村茂樹(WWF ジャパン)
1-07	11:15	竜串湾における SPSS 簡易測定法の適用に関する一考察	○山内一彦(㈱東京久米)・岩瀬文人((財)黒潮生物研究財団)・中地シュウ((財)黒潮生物研究財団)・井上隆彦(㈱東京久米)・小林務(㈱東京久米)
1-08	11:30	有性生殖手法による沖ノ鳥島のサンゴ増殖	○佐藤昭人(水産庁漁港漁場整備部)
1-09	11:45	電着技術を利用したサンゴ増殖技術について	○木原一禎(三菱重工鉄構エンジニアリング)・鯉淵幸生・三浦ゆきこ(東京大学)・山本悟(日本防蝕㈱)・近藤康文(㈱シービーファーム)・大森信・谷口洋基(阿嘉島臨海研究所)

昼食・ポスター発表(奇数番号)

座長：鈴木利幸(静岡大学)

1-10	14:00	石西礁湖におけるサンゴ群落の基礎生産量の推定	○佐藤博雄・斎藤 光(東京海洋大学・海洋科学部)
1-11	14:15	沖ノ鳥島の造礁性サンゴ骨格を用いた海洋表層の栄養塩環境の復元	○山崎敦子(北海道大学大学院理学研究院)・渡邊剛(北海道大学大学院理学研究院)・白井厚太郎(東京大学海洋研究所)・小川奈々子(国立環境研究所)・大河内直彦(国立環境研究所)・植松光夫(東京大学海洋研究所)
1-12	14:30	物質循環からみたサンゴの共生関係とモデルの位置づけ	○城間和代・鈴木款・Agostini Sylvain M.F.M. Fairouz(静岡大学創造科学技術大学院)・Casareto Beatriz(水圏科学コンサルタント・静岡大学)
1-13	14:45	Role of vitamin B12 produced by coelenteric bacteria : evidence for the coral symbiotic complex	○Sylvain Agostini・Yoshimi Suzuki・Beatriz E. Casareto(Shizuoka University)・Yoshikatsu Nakano・Michio Hidaka・Badrin Nesa(University of the Ryukyus)・Kazuyo Shiroma・Kazuhiro Daigo・M. F. M. Fairouz(Shizuoka University)・Hiroyuki Fujimura(University of the Ryukyus)・Kaori Takagaki(Shizuoka University)
1-14	15:00	Effects of carbon dioxide on corals using incubation experiments	○Beatriz Casareto(Laboratory of Aquatic Science and Consultant/Shizuoka University)・Mohan Niraula(Nepal University)・Hiroyuki Fujimura(Ryukyus University)・Yoshimi Suzuki(Shizuoka University)

休憩

座長：藤村弘行(琉球大学)

1-15	15:30	バクテリアによるサンゴ粘液の長期的分解性	○田中泰章(東大海洋研)・宮島利宏(東大海洋研)・小川浩史(東大海洋研)
1-16	15:45	Bio-geochemical importance dissolved organic matter and microbial activity in a post bleached reef: Case study from Sesoko coral reef Okinawa, Japan	○Fairouz M.F.M.・Yoshimi Suzuki・Beatriz Casareto・Agostini Sylvain・Akiyuki Irikawa(Shizuoka University)
1-17	16:00	シゲミカトサカレクチン SLL-2 の糖結合性と結晶構造	○神保充(北里大学海洋生命科学部)
1-18	16:15	海洋酸性化が造礁サンゴとナマコの精子鞭毛運動に及ぼす影響	守田昌哉・○諏訪僚太・中村雅子(琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底実験所)・島田和明(東京大学大学院理学系研究科)・井口亮(琉球大学大学院理工学研究科)・酒井一彦(琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底実験所)・鈴木淳(産業技術総合研究所地質情報研究部門)
1-19	16:30	宮崎県日向灘のオオスリパチサンゴに見られる病気について(速報)	○山城秀之(沖縄高専・生物資源)・福田道喜(グレートダイバーズ)

休憩

座長：山城秀之(沖縄工業高等専門学校)

1-20	17:00	サンゴに病気を引き起こす原因物質の探索	○鈴木利幸・吉永光一(静岡大学創造科学技術大学院)・Beatriz Casareto(水圏科学コンサルタント・静岡大学)・鈴木款(静岡大学創造科学技術大学院)
1-21	17:15	サンゴを白化させる病原バクテリアとその病原バクテリアの増殖を阻止するバクテリアの分離・同定	○吉永光一(静岡大学創造科学技術大学院)・Beatriz Casareto(水圏科学コンサルタント・静岡大学)・鈴木利幸・鈴木款(静岡大学創造科学技術大学院)
1-22	17:30	Effects of quick and slow diseases at <i>Acropora Cytherea</i> in Kerama Islands	○入川暁之・Beatriz Casareto・Agostini Sylvain・鈴木利幸・鈴木款(静岡大学)
1-23	17:45	混合培養バクテリア群によるミドリイシ幼生の高率変態誘導	○松島夏苗・服田昌之(お茶の水女子大学)
1-24	18:00	サンゴ幼生に作用する無節サンゴモの他感作用物質(2)	○北村誠(慶應義塾大学)・Peter J. Schupp(University of Guam)・中野義勝(琉球大学)・上村大輔(慶應義塾大学)

休憩

S-1 18:30 ワークショップ『サンゴ礁学の創成 — 複合ストレス下の生態系と人の共生・共存未来戦略 —』

11月23日(日)

講演番号	講演時間	タイトル	発表者氏名(所属)
座長：井龍康文(名古屋大学)			
2-01	8:30	海底洞窟堆積物にみられる大型有孔虫の種組成の時代変化	○大森明利(静岡大学大学院理学研究科)・山本なづさ(静岡大学創造科学技術大学院)・北村晃寿(静岡大学理学部)
2-02	8:45	サンゴ礁域の海底洞窟生微小二枚貝の酸素同位体比から探る完新世の古水温変化	○山本なづさ(静岡大学創造科学技術大学院)・北村晃寿(静岡大学理学部)・入野智久(北海道大学大学院)
2-03	9:00	サンゴ礁域の海底洞窟に関する地球科学的研究	○北村晃寿(静岡大学理学部)・山本なづさ(静岡大学創造科学技術大学院)・大森明利(静岡大学大学院理学研究科)・森島唯(静岡大学理学部)
2-04	9:15	沖ノ鳥島の現在・完新世のサンゴ構成と地形	○茅根創・本郷由軌(東大・理)・岡地賢(有限会社コーラルクエスト)・井手陽一(海洋プランニング株式会社)・高野弘之・丸山将吾(国土交通省京浜河川事務所)

2-05	9:30	北限域に分布する造礁サンゴを用いた骨格密度の季節～経年変動の復元	○渡邊剛（北海道大学大学院理学研究院）・岨康輝（北海道大学大学院理学院）・永田俊輔・杉原薫（福岡大学理学部）・山野博哉（国立環境研究所）
	休憩		
座長：渡邊剛（北海道大学）			
2-06	10:00	タヒチ島の更新世サンゴ礁堆積物	○井龍康文（名古屋大学）・高橋靖成（東北大学）・Gilbert Camoin (CEREGE)・Guy Cabioch (IRD, Noumea)・Hildegard Westphal (University of Bremen)・松田博貴（熊本大学）・杉原薫（福岡大学）・佐藤時幸（秋田大学）・Jody Webster (University of Sydney)・藤田和彦（琉球大学）
2-07	10:15	小笠原諸島・母島における現成サンゴ礁の地形・堆積構造と形成年代	○菅浩伸（岡山大学）・中島洋典（有明高専）・横山祐典（東京大学）・堀信行（奈良大学）・安達寛（シオアクト）
2-08	10:30	反応拡散系によるサンゴ礁形成モデルの構築とシミュレーションによる礁形成過程の再現	○中村隆志・中森亨（東北大院理）
2-09	10:45	Development of a new Indo-Pacific Ocean circulation model and its application to reveal larval dispersal patterns in SEA-WP regions	○Aditya. R. Kartadikaria（東工大）・宮澤泰正（JAMSTEC）・瀬岡和夫（東工大）
2-10	11:00	地球温暖化に伴う水温上昇が日本近海のサンゴに及ぼす影響評価	○屋良由美子（北大・院地球環境）
2-11	11:15	オニヒトデの駆除とサンゴ礁保全区の選定・数理モデルを用いた検討・	○管家千誠・松田裕之（横浜国立大学 環境情報学府）
S-2	11:30	安全講習会（座学）	
	昼食・安全講習会（実地講習）・保全委員会		
S-3	13:00	公開シンポジウム「サンゴ礁再生への道」	
11月24日（月）			
講演番号	講演時間	タイトル	発表者氏名（所属）
座長：杉原薫（福岡大学）			
3-01	8:30	Taiwan as a stepping-stone of reef-building corals to Japanese coral reefs: potential collaboration in genetic connectivity and conservation	○Chaolun Allen Chen (the Biodiversity Research Center)
3-02	8:45	Stable association of <i>Symbiodinium</i> clade A and between-reef variation of symbiont diversity in seven common scleractinian species in the Chagos archipelago, Indian Ocean	○Sung-Yin Yang (the Biodiversity Research Center)
3-03	9:00	Presence of symbionts increases oxidative DNA damage of <i>Acropora</i> larvae under high PAR and UV	○Nesa B (University of the Ryukyus)・Baird A (James Cook University)・Harii S (University of the Ryukyus)・Yakovleva I (Institute of Marine Biology, Vladivostok, Russian Federation)・Hidaka M (University of the Ryukyus)
3-04	9:15	サンゴと渦鞭毛藻の細胞内共生に関する遺伝子の解析	○湯山育子・渡邊俊樹・竹井祥郎（東京大学海洋研究所）
3-05	9:30	インド洋・太平洋におけるオニヒトデ大量発生集団の遺伝的構造	○安田仁奈（瀬戸内海区水産研究所）・長井敏・岡地賢・西田睦・Karin Gerard・瀬岡和夫（東京工業大学）
3-06	9:45	造礁サンゴの体細胞組織におけるテロメラーゼ活性の検出	○中道弘敏（琉球大学大学院）・磯村尚子（沖縄工業高等専門学校）・日高道雄（琉球大学理学部）
3-07	10:00	イシサンゴからの褐虫藻放出現象：サンゴは選択的に褐虫藻を放出するのか？	○山下洋（広大院生物圏）・由良顕子（広大生物生産）・林原毅（西海水研石垣）・小池一彦（広大院生物圏）
	休憩		
座長：林原毅（独立行政法人水産総合研究センター 西海区水産研究所）			
3-08	10:30	サンゴの褐虫藻に及ぼす温度変化の影響：色素分析による解析	○太期一弘（静岡大学大学院）・中野義勝（琉球大熱生研）・Beatriz E. Casareto（水圏科学コンサルタント・静岡大）・鈴木款・塩井祐三（静岡大創造科学技術大学院）
3-09	10:45	琉球列島産無節サンゴモ <i>Neogoniolithon brassica-florida</i> complex の系統分類学的研究	○加藤亜記（琉球大・院・理工）・馬場将輔（海洋生物環境研究所）・須田彰一郎（琉球大・理）
3-10	11:00	デジタル画像を用いた無腸類アコエラの行動解析	○神木隆行（琉球大・理）・中村崇（九州大・理）・山崎秀雄（琉球大・理）
3-11	11:15	コウライトラギスの雄の繁殖戦略	○吉川朋子（玉川大学農学部）・麻生一枝（成蹊大学理工学部）
3-12	11:30	マジュロ環礁の人口が密集した州島付近における有孔虫の棲息密度の減少とその原因	○藤田和彦（琉球大・理・物質地球科学）・大澤葉子（東京大・理・地球惑星科学）・茅根創（東京大・理・地球惑星科学）・井手陽一（海洋プランニング（株））・梅沢有（長崎大）・永岡達聖（琉球大・理・物質地球科学）・山野博哉（国立環境研）
3-13	11:45	九州西部～隅岐にかけての造礁サンゴ群集の緯度変化	○杉原薫・永田俊輔・園田直樹（福岡大・理）・山野博哉（国立環境研）
	昼食		
座長：安田仁奈（独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所）			
3-14	13:00	石垣島白保コピエダハマサンゴの2007年夏期生組織喪失からの回復	○麻生一枝（成蹊大学理工学部）
3-15	13:15	宮古島サンゴ礁の観光被害調査と保全アクション報告	○猪澤也寸志（エコガイド教育コンソーシアム）
3-16	13:30	沖縄島・大浦湾におけるアオサンゴ（ <i>Heliopora coerulea</i> ）群集の調査結果（速報）	○大野正人（日本自然保護協会）・安部真理子（沖縄リーフチェック研究会）・長谷川均（国士館大学）・後藤智哉（国士館大学大学院）・鈴木倫太郎（駒澤大学）・中井達郎（国士館大学・立正大学）・黒住耐二（千葉県立中央博物館）・花輪伸一（WWF ジャパン）
3-17	13:45	「日本全国みんなで作るサンゴマップ」の取り組み	○浪崎直子（NPO 法人 OWS）・柴田剛（株式会社エアロフォトセンター）・鈴木倫太郎（駒澤大学応用地理研究所）・平手康市・宮良道子（国際サンゴ礁年沖縄ワーキンググループ）・古瀬浩史（自然教育研究センター）・宮本育昌・土川仁（コーラル・ネットワーク）・安村茂樹・町田佳子（WWF ジャパン）・山中康司（NPO 法人日本安全潜水教育協会）・山野博哉（国立環境研究所）
3-18	14:00	八重山諸島のサンゴ礁保全に対する観光客と企業の資金協力の可能性	○宮本善和（中央開発株式会社）
3-19	14:15	八重山でのサンゴ礁魚類資源管理（MPAと体長制限）	○鹿熊信一郎（沖縄県八重山支庁農林水産整備課）
	ポスター発表（偶数番号）		
	休憩・大会奨励賞授賞式		
S-4	16:00	ワークショップ「『やまと』のサンゴ・サンゴ礁を調べる～環境変化の指標としての高緯度サンゴ」	

ポスター発表		
奇数番号：11月22日（土）13:00～14:00、偶数番号：11月24日（月）14:30～15:30		
講演番号	タイトル	発表者氏名（所属）
P-01	Characterization of bacteria from the mucus and tissue of corals in a high-latitude coral community	○Keshavmurthy Shashank・Fukami Kimio・Mukaimoto Kosuke (the Biodiversity Research Center/Kochi University)

P-02	白化したサンゴと健康なサンゴとの遺伝子発現比較による白化早期診断に有用な遺伝子バイオマーカーの探索	○伊藤吉彦・湯山育子・渡邊俊樹・西田睦（東京大学海洋研究所）
P-03	リアルタイム PCR 法によるサンゴ HSP70 様 mRNA の定量化	○大城洋平・金城孝一・仲宗根一哉・宮城俊彦（沖縄県衛生環境研究所）・瀬岡和夫（東京工業大学）
P-04	Ancient lineages of <i>Zoanthus</i> (Anthozoa: Hexacorallia) species.	○James Davis Reimer・Kiyotaka Takishita・Tadashi Maruyama (University of the Ryukyus)
P-05	沖ノ島とその周辺地域のミドリイシ類の遺伝的比較	○深見裕伸（京大・瀬戸臨海）・林原毅（西海区水研）・石岡昇（（社）水産土木建設技術センター）・北野倫夫（（株）エコー）・鈴木豪（京大・瀬戸臨海）・妹尾浩太郎（東京都小笠原水産センター）・Alexander M. Kerr（グアム大）
P-06	Bacteria associated with the coral <i>Acropora</i> showing white syndrome disease in Sekisei Lagoon	○Beatriz Casareto (Laboratory of Aquatic Science and Consultant/Shizuoka University)・Toshiyuki Suzuki・Koichi Yoshinaga・Yoshimi Suzuki (Shizuoka University)
P-07	<i>Acropora tenuis</i> の幼生の <i>Symbiodinium</i> sp. 獲得における糖鎖の関与	○谷本典加（北里大学）
P-08	共生褐虫藻から探るムカデミノウミウシと褐虫藻の共生関係の進化	○依藤実樹子・渡邊俊樹・西田睦（東京大学海洋研究所）
P-09	環境中に出現する褐虫藻の系統解析	○山下洋・小池一彦・大塚攻（広大院生物圏）
P-10	培養褐虫藻の環境条件（温度、光）による色素組成の変化	○森啓嘉・太期一弘（静岡大学）・日高道雄（琉球大学）・Beatriz Casareto（水圏科学コンサルタント・静岡大）・鈴木款・塩井祐三（静岡大学）
P-11	ミドリイシ属幼生は野外で褐虫藻を獲得するか？—その特異性と柔軟性	○波利井佐紀（琉大・理工）・日高道雄（琉大・理）
P-12	スゲアママモ葉鞘におけるネムグリガイの生活様式に関する考察	○石川義朗（財・環境科学技術研究所）・岩本篤志（株・水圏科学コンサルタント）
P-13	駿河湾における低水温により白化したエダミドリイシ群集の変遷	○上野信平（東海大・海洋）・南都知世（東海大・院）
P-14	駿河湾におけるエダミドリイシの成長と光条件の関係	○南都知世（東海大・院）・上野信平（東海大）
P-15	同所的に生息する形態の似た <i>Acropora</i> 属サンゴ種間での集団構造	○中島祐一（琉大・理工・海洋環境）・西川昭（ジェームスック大・比較ゲノミクスセンター）・井口亮（琉大・理工）・酒井一彦（琉大・熱生研）
P-16	温帯で優占するエンタクミドリイシにおける隠蔽種が存在	○鈴木豪・深見裕伸（京大フィールド研・瀬戸）
P-17	転石の裏に生息する未記載スナギンチャクの分類学的研究	○藤井琢磨・James D. Reimer（琉球大学理学部）
P-18	琉球列島近海のムラサキハナツタ（花虫綱・八放サンゴ亜綱）に見られる形態的2型についての分類学的検討	○宮崎悠（琉球大学理工学研究科）
P-19	コブミドリイシ <i>Acropora digitifera</i> とアザミサンゴ <i>Galaxea fascicularis</i> の生殖集の発達過程と産卵様式	○諏訪僚太・中村將（琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底実験所）
P-20	サンゴ骨格の微細構造観察	○薮聡子・永井隆哉・岨康輝・渡邊剛（北海道大学・院・理）
P-21	温帯域と亜熱帯域に生息する <i>Favia</i> の骨格形成の違い	○永田俊輔・杉原 薫（福岡大・理）
P-22	多元素プロファイリングアナリシスによる海水からシャコガイへの元素利用特性の解析	○伊藤彰英・可部徳子・山口真実・新垣輝生（琉球大学教育学部）
P-23	海洋酸性化はサンゴの初期生活史にどのような影響を及ぼしうか？	○中村雅子・諏訪僚太・守田昌哉（琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底実験所）・島田和明（東京大学大学院）・井口亮（琉球大学大学院）・酒井一彦（琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底実験所）・鈴木淳（産業技術総合研究所）
P-24	海草群落における有機炭素循環	○小川光平（静岡大理工）・石川義朗（環境科技研）・坂西芳彦（水研セ・北水研）・宗林留美（静岡大理）・鈴木款（静岡大院）
P-25	サンゴ礁砂地における有機物生産量と栄養塩動態	○田代翼・Casareto Beatriz・Agostini Sylvain・入川暁之・鈴木利幸・鈴木款（静岡大学）
P-26	野性トゲスギミドリイシの胚 / 幼生 1 個体のエネルギー消費量から予想される分散特性	○Nami Okubo (Japan Society for the Promotion of Science/ Kyoto University), Hiromi Yamamoto (Okinawa Churaumi Aquarium), Fumio Nakaya (Ochanomizu University), Ken Okaji (CoralQuest Inc.)
P-27	離島域における CO2 隔離法の評価	○所立樹・野崎健・加藤健・根岸明・嘉藤徹（産総研）・茅根創（東大・地球惑星科学専攻）
P-28	石垣島白保海域におけるコンパートメント別の炭酸系動態と群集代謝特性	○渡邊敦・瀬岡和夫・本岡俊介・山本高大・Ariel C. Blanco・Eugene C. Herrera（東工大）・茅根創（東大）
P-29	Introduction of a new project "Conservation strategy based on regional reef connectivity and environmental load assessment in SEA-WP Region"	○Coralie Taquet（東工大）・瀬岡和夫（東工大）・宮澤泰正（JAMSTEC）・笹井義一（JAMSTEC）・長井敏（瀬戸内水研）・安田仁奈（瀬戸内水研）・Aditya R. Kartadikaria（東工大）
P-30	Groundwater discharge and its effect on water quality in Shiraho reef (Okinawa, Japan) and Puerto Galera Bay (Philippines)	○Ariel C. Blanco・瀬岡和夫・渡邊敦・山本高大・本岡俊介・Eugene C. Herrera（東工大）
P-31	石垣島東海岸におけるアオサンゴ群落の地形的・遺伝的的特性の把握	○滝野功（東工大）・安田仁奈（瀬戸内水研）・瀬岡和夫（東工大）・木村恵（東大）・Coralie Taquet（東工大）・渡邊敦（東工大）・本岡俊介（東工大）・安部真理子（琉大）・練春蘭（東大）・平良正義（民泊白保）
P-32	Fringing reef における赤土輸送・堆積数値シミュレーション解析 —石垣島東海岸および沖縄本島屋嘉田淵原を対象として—	○前田勇司・瀬岡和夫（東工大）・金城孝一（沖縄県衛生環境研究所）
P-33	空中写真分析による石垣島周辺のサンゴ礁海底被覆と土地利用の変遷評価	○渡邊康志（GIS 沖縄研究室）・本村裕基・Ankita P. Dadhich・瀬岡和夫（東工大）
P-34	コブミドリイシの群体成長・共生藻光合成における環境変動の影響	○中村崇（九州大学大学院 理学研究院）・山崎征太郎・Yeong Shyan Yuen・山崎秀雄（琉球大学 理学部）
P-35	長期定点観測調査に基づくサンゴ礁海域の底質中懸濁物質含量（SPSS）の変動とその要因	○仲宗根一哉（沖縄県衛生環境研究所）・金城孝一（沖縄県衛生環境研究所）・瀬岡和夫（東京工業大学）・宮川勝司（（株）沖縄環境分析センター）・吉本昌弘（（株）沖縄環境保全研究所）・宮城俊彦（沖縄県衛生環境研究所）
P-36	気象・海象特性や陸域特性を反映させた琉球諸島のサンゴ礁区分	○金城孝一・仲宗根一哉（沖縄県衛生環境研究所）・瀬岡和夫・竹刈和範・前田勇司（東京工業大学）・細谷幸代・中西佳子（沖縄環境調査（株））・岩橋浩輔（（株）沖縄環境分析センター）・宮城俊彦（沖縄県衛生環境研究所）
P-37	簡易チャンバーを用いた沖縄備瀬海域サンゴ・海草群落における炭素・窒素生産量の見積もり	○樋口富彦・Kimberly Takagi・的場香奈（琉大院 理工）・小林秀星・津留見遼太（琉大 理）・新垣誠司（琉大院 理工）・中野義勝（琉大 熱生研）・藤村弘行・大森保・土屋誠（琉大 理）
P-38	瀬底島サンゴ礁における重金属と生物群集による取り込み	○藤村弘行・樋口富彦・小林秀星・津留見遼太・大森保（琉球大・理）・中井達郎（国士館大）・中野義勝（琉球大・熱生研）・Agostini Sylvain・Beatriz Casareto・鈴木款（静岡大）
P-39	瀬底島クニリ浜（瀬底ビーチ）礁原上における海水流動変化の時空間的特性	○中井達郎（国士館大学）・藤村弘行（琉球大学）・樋口富彦（琉球大学）・中野義勝（琉球大学熱生研瀬底実験所）・Beatriz Casareto・鈴木款（静岡大学）
P-40	過去 10000 年間の海面上昇に対するサンゴ礁生態系の応答	○本郷由軌（東京大学大学院 理学系研究科）・茅根創（東京大学）
P-41	港湾整備におけるブロック表面の凹凸加工によるサンゴ着生促進技術の効果	前幸地紀和・知念直・島田雅志・○仰木芽久美（沖縄総合事務局 開発建設部港湾計画課）・津田修一（沖縄総合事務局 那覇港湾・空港整備事務所）・小早川弘（沖縄総合事務局 平良港湾事務所）・小島栄・池田義紀（財団法人 港湾空間高度化環境研究センター）・山本秀一・岩村俊平（株式会社エコー）
P-42	簡易式のサンゴ蛍光撮影機の開発	○古島靖夫・丸山正（独立行政法人海洋研究開発機構）・鈴木貞男（O.R.E.）

P-43	宜野湾市コンベンションビーチ地先海域におけるサンゴの植え付け及びモニタリング	○山里祥二 (NPO 法人コーラル沖縄)
P-44	市民と研究者の協働による「OWS 北限域の造礁サンゴ分布調査」	○浪崎直子 (NPO 法人 OWS)・横山耕作 (NPO 法人 OWS)・山野博哉 (国立環境研究所)・杉原薫 (福岡大学)・中井達郎 (国士舘大学)
P-45	四国西南海域におけるハナヤサイサンゴ科 2 種の加入に関する研究	○宮本麻衣 (阿嘉島臨海研究所)
P-46	温帯域のオオトゲクメイシ属の種の実態調査	○座安佑奈 (京都大学理学研究科・瀬戸臨海実験所)・野村恵一 (串本海中公園)・深見裕伸 (京都大学理学研究科・瀬戸臨海実験所)
P-47	沖縄近海のバヤオに付着した造礁サンゴ類の群集調査	○甲斐清香 (海洋博覧会記念公園管理財団沖縄美ら海水族館)
P-48	四国西南海域における造礁サンゴ幼生加入の季節変化	○渡邊美穂 (東海大・院・海洋学研究科)・岩瀬文人 (黒潮生物研究所)・横地洋之 (東海大学・海洋研究所)
P-49	四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入について 2004 ~ 2008	○長谷川亮太・○相羽真祐子 (東海大学海洋学部)・岩瀬文人 (黒潮生物研究所)・横地洋之 (東海大学海洋研究所)
P-50	海洋博覧会記念公園海域における海藻・海草類の生息状況	○岩永洋志登・岩橋浩輔 ((株) 沖縄環境分析センター)・金谷悠作・山本広美 (沖縄美ら海水族館)
P-51	ユビキタスプライを用いたサンゴ礁保全のための海水温観測の試み	○戸田真志・和田雅昭 (公立ほこだて未来大学)・吉田隆 (沿岸海洋調査株式会社)・畑中勝守 (東京農業大学)・中野義勝 (琉球大学)
P-52	高知県大月町西泊地先海域における日出前後の造礁サンゴの産卵について	○目崎拓真・岩瀬文人 (黒潮生物研究所)
P-53	瀬底島クニリ浜 (瀬底ビーチ) 礁池内のサンゴの生息状況とサンゴ礁イノアの保全の方策の検討	○中野義勝 (琉球大学熱生研瀬底実験所)・中井達郎 (国士舘大学)・藤村弘行・樋口富彦 (琉球大学)・Agostini Sylvain・Beatriz Casareto・鈴木款 (静岡大学)
P-54	サンゴ礁を彩る華 ー琉球列島におけるウミダコ類の種多様性	○藤田喜久 (琉球大学・大学教育センター／NPO 法人 海の自然史研究所)
P-55	沖縄島沿岸におけるスナギンチャク類 5 種の分布調査	○伊礼由佳・James Davis Reimer (琉球大学)
P-56	南西諸島の重要サンゴ群集域の選定	○安村茂樹 (WWF ジャパン)・岡地賢 (コーラルクエスト)・柴田剛 (内外地図・現所属エアロフォトセンター)・松本毅 (YNAC)・興克樹 (ティダ企画)・梶原健次 (宮古島市)・長田智史 (沖縄県環境科学センター)・吉田稔 (海游)・山野博哉 (国立環境研)・酒井一彦 (琉球大)
P-57	物理環境に基づくサンゴ礁の類型化とサンゴ分布ポテンシャルの評価	○山野博哉 (国立環境研)・柴田剛 (内外地図・現所属エアロフォトセンター)・中井達郎 (国士舘大学)・安村茂樹 (WWF ジャパン)
P-58	南西諸島の重要サンゴ群集の広域一斉調査	酒井一彦 (琉球大)・岡地賢 (コーラルクエスト)・柴田剛 (内外地図・現所属エアロフォトセンター)・松本毅 (YNAC)・興克樹 (ティダ企画)・梶原健次 (宮古島市)・長田智史 (沖縄県環境科学センター)・○山川英治 (沖縄県環境科学センター)・吉田稔 (海游)・山野博哉 (国立環境研)・安村茂樹 (WWF ジャパン)
P-59	石垣島白保サンゴ礁における造礁サンゴ類の詳細分布地図 その 2 ー保全活動のためのベースマップ作成ー	○鈴木倫太郎 (駒澤大学応用地理研究所)・長谷川均 (国士舘大学)・前川聡 (WWF ジャパン)・市川清士 (駒澤大学)・柴田剛 (㈱エアロフォトセンター)・後藤慶之 (駒澤大学)
P-60	石垣島白保礁池内における赤土堆積の変動	○前川聡・鈴木智子 (WWF サンゴ礁保護研究センター)
P-61	陸上サンゴ養殖事業の展開 (第 4 期を迎えて)	○平良栄康 (株式会社 Aqua Culture Okinawa)
P-62	飼育下におけるツノサンゴ目 (六放サンゴ亜綱) の成長および growth ring の形成要因	○高岡博子 (海洋博覧会記念公園管理財団沖縄美ら海水族館)
P-63	沖ノ島島の造礁サンゴ相	○岡地賢 (有限会社コーラルクエスト)・茅根創 (東大・理)・林原毅 (西海区水研)・井手陽一 (海洋プランニング株式会社)・高野弘之・丸山将吾 (国土交通省京浜河川事務所)・本郷由軌 (東大・理)
P-64	静岡県西浦江梨地先におけるエダミドリイシ <i>Acropora tumida</i> 微小群体の最適な移植時期	○日越貴大 (東海大学院海洋)・堀誉幸・山口奈穂 (東海大学海洋)・舟尾隆 (東海大海洋)・横地洋之 (東海大海洋研)
P-65	現位置分級装置によるサンゴ群集海域の環境修復技術	○田中亮三・二宮早由子・岩下勉・山内一彦・天間浩之 (㈱東京久栄)
P-66	枝状サンゴ群集の再生のための技術開発	○林原毅・波野拓郎 (水産総合研究センター西海区水産研究所石垣支所)・鈴木豪 (京都大学瀬戸臨海実験所)・家久侑大・鈴木清 ((株) ダイクレ)
P-67	サンゴの移植：逐次移植の適用と効果	○西平守孝 (名桜大学)
P-68	白保サンゴ礁におけるサンゴ類の回復過程に影響する生物的要因の研究	○吉澤明日香 (日本女子大学大学院)・前川聡 (WWF ジャパン)・佐藤哲 (長野大学)
P-69	微弱電流を利用した有性生殖によるサンゴ増殖実験	木原一禎 (三菱重工鉄構エンジニアリング)・鯉淵幸生 (東京大学)・山本悟 (日本防蝕㈱)・○近藤康文 (㈱シービーファーム)・大森信・谷口洋基 (阿嘉島臨海研究所)
P-70	電着基盤サンゴ棚を用いたサンゴ増殖実験	○木原一禎 (三菱重工鉄構エンジニアリング)・鯉淵幸生・三浦ゆきこ (東京大学)・山本悟 (日本防蝕㈱)・近藤康文 (㈱シービーファーム)
P-71	サンゴの活着に対する電着効果について	○安藤亘 (社団法人水産土木建設技術センター)・木原一禎 (三菱重工橋梁エンジニアリング株式会社)・北野倫生 (株式会社エコー)・石岡昇 (社団法人水産土木建設技術センター)
P-72	サンゴ増殖礁の開発	○田村真弓 (水産庁漁港漁場整備部)
P-73	サンゴ種苗生産用着生基盤の改良	○中村良大・渡邊浩二・安藤亘・石岡昇 ((社) 水産土木建設技術センター)・田村真弓 (水産庁漁港漁場整備部)
P-74	沖ノ島島産稚サンゴ 6 万株の移設	○北野倫生・山本秀一 (株式会社エコー)・渡邊浩二 (社団法人水産土木建設技術センター)・青田徹 (株式会社不動テトラ)・田村真弓 (水産庁漁港漁場整備部)
P-75	沖縄西海岸におけるサンゴ移植事例の評価の試み	大城照彦・城間健男・内間安智 (沖縄総合事務局 南部国道事務所)・○高橋由浩・岩村俊平・川崎貴之 (株式会社エコー)
P-76	防波堤直立壁の表面形状が与えるサンゴの着生効果 - その 2 -	○柴田早苗 (株式会社 不動テトラ)
P-77	U/Ca in coral skeleton as a proxy of carbonate system in coral reef.	○Fahamiatti Tanri・Armid Airum・Yuki Takaesu・Hiroyuki Fujimura・Tomihiko Higuchi (Univ. of the Ryukyus)・Eiko Taira (AquaCulture Okinawa) and Tamotsu Oomori (Univ. of the Ryukyus)
P-78	サンゴ礁 - 浅海熱水系におけるクロロフィル -d の出現とその重要性	○大森保・島田幸次郎・大隈 由貴・伊藤道裕・佐野伸哉・野口拓郎・Sheikh Md Ali・樋口富彦・藤村弘行・新里尚也 (琉球大)・太期一弘・塩井祐三 (静岡大)・平山仙子・山本啓之 (JAMSTEC)

口頭発表について

口頭発表の講演時間は質疑応答も含めて一人 15 分です。発表機材は液晶プロジェクターおよび WindowsXP (PowerPoint2003) と MacOSX (PowerPoint2004) のコンピュータを用意いたします。ファイルの受付は 11/22、23、24 の午前中に行います。受付可能なメディアは CD または USB フラッシュメモリです。ファイル名は半角英数字で講演番号 + 姓としてください。(例：1-25suzuki.ppt)

ポスター発表について

ポスター発表のパネルの大きさは 180cm × 90cm です。この範囲に収まるように各自で自由にポスターの大きさを設定してください。ポスターは大会受付後より最終日まで掲示してください。画紙とテープは会場で用意いたします。講演時間は二交代制で各 1 時間です。

11th ICRS 特集



会場での発表には多くの聴衆が集まった



JCRS ブースの概観



JCRS ブースに
並んだ学会誌・日
本のサンゴ礁につ
いての広報活動用
資料

去る7月7日から7月11日にかけて、世界各国から3400名以上が参加し、第11回国際サンゴ礁学会(11th ICRS; International Coral Reef Symposium)が米国フロリダ州東部にある海辺の街、フォートローダーデールのコンベンションセンターで開催されました。

川口基金助成 参加者報告

11th ICRS では、JCRS の活動をさらに持続発展させるために、日本サンゴ礁学会川口基金の一部から、3名の優秀な若手会員に対して渡航費の助成を行いました。助成者には、研究発表のみならず、JCRS ブース(写真)でのJCRSの活動紹介や海外会員の勧誘、日本のサンゴ礁のアピールなどの広報活動もお手伝いして頂きました。



安部 真理子

琉球大学理工学研究科博士後期過程 / 沖縄リーフ
チェック研究会
abe @ reefcheck.net

今回は保全の観点からリーフチェックに関する発表を2件、そして博士号での研究の総まとめである『琉球列島のアザミサンゴ (*Galaxea fascicularis*) の種内変異について』を発表しました。前者は立ち上げから10年にわたりデータを取り続けた日本国内のリーフチェックの結果及び昨年9月に新発見された大浦湾のアオサンゴ群集の形を示したおおまかな3D図の発表で、後者は分子生物学から産卵交配実験な

どアザミサンゴの多様性について総合的に解析したものです。今回の大会の趣旨であった「Reefs for the future」に分子生物学と保全という異なる2分野の観点から発表することができ、また両分野について多くの研究者と交流することができ、実りある大会参加となりました。今後、この貴重な経験を活かし、日本のサンゴ礁保全の分野に貢献していきたいです。ご支援ありがとうございました。



本郷 宙軌

東京大学大学院・理学系研究科・地球惑星科学専攻
c-hongo @ eps.s.u-tokyo.ac.jp

この度は渡航費助成の機会を下され、ありがとうございました。フロリダ滞在中の私のミッションは、これまでの研究成果の発信および、日本のサンゴ礁研究のアピールでした。私の研究は、過去1万年間の化石サンゴから、海面変動に対するサンゴ礁形成過程および生態系の変遷を明らかにして、将来の気候変動によってサンゴ礁がどのように応答するのかについて取り組んだテーマです。このテーマは、今回の大会スローガンである「Reefs for the future」

に正面から取り組んだものであり、関連する研究発表が多くあり、大変刺激的でした。学会ブースでは、多くの学会員と協力して、日本のサンゴ礁の地理的特徴や学会出版物について、100名以上の方々に情報発信することができました。最後になりましたが、今回の学会に参加して得た事を活かし、今後の研究活動および日本のサンゴ礁研究の発展に寄与していこうと思います。



鈴木 豪

京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実 教務補佐員
gosuzu @ kais.kyoto-u.ac.jp

私のフロリダ行きは、学会の本大会とその後のエクスカージョンで、2週間の長旅になりました。自分の研究分野がサンゴの着生・加入メカニズムの解明ということもあり、学会中は、サンゴの初期生活史に関する話題を中心に発表を聞き、今後の研究に役立つ多くの情報を得ることができました。自分の口頭発表と重なってしまい、ポスター発表で前に立つ

ことができなかったのですが、休憩時間などが豊富にあったため、他の参加者と議論を深めることができました。また、エクスカージョンでは、これまで文献上では知らなかった太平洋とカリブ海のサンゴの群集組成の違いを肌で感じることができました。以上のような貴重な機会を与えてくださったJCRSの渡航支援に感謝いたします。

一般 参加者報告



佐藤 崇範

環境省 国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター
アクティブレジャー
TAKANORI_SATO @ env.go.jp

当モニタリングセンターでは、「八重山周辺海域における近年のサンゴ白化の状況」についてポスター発表を行い、台湾やフィリピンなどの研究者と、近年の白化やオニヒトデの発生状況などについて情報交換を行うことができました。また、JCRSにて展示・配布した、国際サンゴ礁年2008の日本オリジナルポスターや礁太くんとその仲間達のステッカーなどは、各国の方々に「美しい!」、「かわい

い!」と大変好評でした。各国で取り組まれているサンゴ礁保全への取組みや普及啓発活動などをみると、現在、日本各地で行われている取組みが国際的にも質の高いものである一方で、十分に認知されていないと感じました。より多くの方の目に触れ、全体的な質をさらに高めていくためにも、今後より積極的に世界にアピールしていく必要があると考えています。



藤村 篤

Nova Southeastern University
Oceanographic Center (NSUOC)
fujimura @ nova.edu

11thICRSを終えて
今回のICRSの主催者である当校のOceanographic Centerでは、附属施設であるサンゴ礁研究のNational Coral Reef Instituteや主に魚類を担当しているGuy Harvey Research Institute等が中心となって様々な研究活動をおこなっています。皆このシンポジウムの為に頑張っていました。ICRSは全体的に成功したと思いますが、改

善すべき点もみられました。一つのミニシンポジウムに多くの分野が混在していたり、他のミニシンポジウムに当てはまる発表があったりしたので、更なる分野の細分化と統合が必要だと感じました。また、ポスター発表と口頭発表の時間的オーバーラップは問題だと思いました。個人的に得たものは多く、数々の発表や討論は勿論の事、日本サンゴ礁学会の方々を知り合えた事はとても大きいです。

NPO/NGO 紹介

沖縄リーフチェック研究会

沖縄リーフチェック研究会
安部 真理子 abe@reefcheck.net



▲写真：泡瀬干潟におけるリーフチェック調査

2006年12月に、沖縄本島に住むメンバー4名で沖縄リーフチェック研究会を立ち上げました。沖縄本島に住むメンバーを中心にすることにより、地域に密着した形でのサンゴ礁保護活動に取り組めるようにという意図で発足し、年に数回のリーフチェック調査を中心にさまざまな取り組みを行っています。現在の会員数は46名です。活動の内容は以下にご紹介する通りです。

1意見書の作成・提出：沖縄各地で計画あるいは推進中のサンゴ礁の破壊行為（計画中のものも含む）に対して、研究者の立場から積極的に発言して問題点を意見書という形で指摘してきました。現在までに普天間代替施設移設、泡瀬干潟、那覇港公有水面埋立事業などに対する意見を提出しています。

2大浦湾生き物マップ作り：名護市大浦湾のジュゴン保護基金委員会とダイビングチームすなっくスナフキンと共同で、大浦湾に住む生き物たちの生息場所の地図を作成しています。既存のリーフチェック調査ポイントはもちろんのこと、キクメイシモドキを背負って歩くスィショウガイの分布や、今年5月に発見された多種のハマサンゴ類が同所的に棲息するポイント「サンゴ博物館」などについて調査を行っています。また、NL37号で報告いたしました2007年9月に発見された大浦湾のアオサンゴ群集の簡易3次元マップの作成をはじめとし、方形枠調査等、さまざまな調査方法を導入しています。テレビシンのアオサンゴ群集を含めた地図を今年度末に発表予定です。

3泡瀬干潟のミドリイシ群集調査：これまで正式に存在が確認されていなかったサンゴ群集の位置や規模を明らかにし、年1～数回のリーフチェック調査及び方形枠調査を実施しています。同海域のヒメマツミドリイシ群集の産卵を2007年、2008年の2年にわたり確認し、またリーフチェック底質調査結果からサンゴの被度が58%（2005年10月）から36.2%（2008年9月）と3年間で大きく下がった事を確認しています。

4ウェブサイトからの情報発信：リーフチェックの調査方法、日々の活動の報告、フォトギャラリー、Q&Aコーナー、書籍紹介などさまざまなコーナーを設け、情報発信を行っています。中でもサンゴ礁に関する話題を科学・文化・生活等の多岐に渡る方面から紹介している「サンゴ礁話題いろいろ」コーナーに力を置いています。

5サンゴ礁談話会：月に1回を目安として写真家、タコ湾の専門家、サンゴの専門家など研究会会員内外から

講師を招き、一般の方も交え勉強会を行っています。

6サンゴ同定マニュアルの翻訳：サンゴ研究を専門とする研究者や大学院生を中心とするメンバーで、オーストラリアのサンゴ研究者らによって作成された「Coral Identification Training Manual Version 1」の翻訳を行いました。10月には印刷が完了しますので、これを元にしたサンゴ同定実習を行う予定です。

活動の詳細はウェブサイト（<http://reefcheck.net>）もご覧くださいませ。

大浦湾生き物マップ作りプロジェクトにはWWFジャパン、アウトドア助成基金より、またサンゴ同定マニュアルにはプロ・ナトゥーラ・ファンダから助成を受けております。



サンゴ同定マニュアルの表紙

日本サンゴ礁学会会員用に簡易版（12頁）を50部、完成版（47頁）50部を準備しましたので希望者に差し上げたいと思います（先着順・各1部）。希望される方はA4の封筒に返送先を明記の上、240円の切手を同封し、「〒901-0604 南城市玉城字玉城 861-4 井口亮」宛にお送りください。

渡邊俊樹先生のご逝去を悼む

渡邊俊樹先生は、2008年6月30日にご逝去されました。先生は、サンゴの分子生物学において画期的な成果を上げられるとともに、日本サンゴ礁学会の評議員（2005-2008）、学会誌編集委員（2005-2008）をつとめられ、また昨年度は企画運営委員会メンバーとして学会賞、川口賞の創設にも大きな貢献をなさいました。渡邊先生が亡くなられたことは、本学会にとっても大きな損失であり、とても残念なことでした。9月2日には、先生を偲ぶ会が本郷の学士会館で行われ、様々な分野の方が参加して、先生のお人柄とご功績を偲びました。渡邊先生が、沖縄の海が好きで、沖縄そばや山羊汁が好きで、そして沖縄のサンゴ礁の衰退を気にかけていらしたことが語られました。



渡邊先生は、1959年1月5日に東京都港区でお生まれになりました。先生は東京大学

で物理学を専攻されましたが、修士課程修了後1983年米国イェール大学大学院に進学され、1989年に「キイロショウジョウバエ成体の中枢神経系発達に関する分子遺伝学的研究」でPh.D.を取得されました。その後、イェール大学、スタンフォード大学でポスドク研究員を経験され、1994年に東京大学海洋研究所に助教授として着任されました。ここでは、先生が90年代後半から始められたサンゴの分子生物学における業績を簡単に紹介したいと思います。渡邊先生は、アザミサンゴ *Galaxea fascicularis* の骨格基質から新しいタンパク質を発見されてgalaxinと名付けられ、その構造と遺伝子を明らかにされました。この遺伝子はこれまで全く知られていなかったもので、サンゴの骨格形成に関連する遺伝子として、現在サンゴのゲノミクス研究者から注目されています。また同時にサンゴや褐虫藻の遺伝子発現を解析するための最初のステップとして、サンゴや褐虫藻のアクチン遺伝子の研究も始められました。その後サンゴや褐虫藻のESTライブラリーを作成され、両者の性質の違いについて重要な報告をされています。ま

た、渡邊先生は、大学院生の早川英毅さんとともに、サンゴからはじめて卵黄タンパク質ビテロジェニンの遺伝子が発見されるとともに、アザミサンゴの卵に含まれる新しいタンパク質を報告されています。大学院生の湯山育子さんとは、硫酸イオントランスポーターをはじめとして、細胞内共生に関与する遺伝子が発見されています。これらは、サンゴの石灰化、生殖、共生に関する世界に先駆けた成果でした。また先生はアザミサンゴの種内変異にも興味を持たれ、私たちの研究室と共同で、アザミサンゴの2タイプが生殖隔離されていることを、交配実験や分子マーカーを用いた研究により示されました。また沖縄のサンゴ礁の衰退を目の当たりにして、海洋汚染に対するサンゴのストレス応答を調べる研究にも情熱を注がれました。先生のお仕事は、お弟子さんたちを始め世界のサンゴ礁研究者によって引き継がれていくことと思います。渡邊俊樹先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

琉球大学 日高道雄

編集後記

今大会のプログラムの充実からしても、JCRSの活性化が感じられるかと思ひます。広報委員会では、より多くの分野・世代の方々からの参加、ご意見をお待ちしております。新人の方も大歓迎です。

編集担当 中村

JCRS
Japanese Coral Reef Society
2008年10月25日発行

日本サンゴ礁学会ニュースレター [2008 / 2009 No.2]
Newsletter of Japanese Coral Reef Society No.39

●編集・発行人／「日本サンゴ礁学会広報委員会」 藤村 弘行・安部 真理子・井口 亮・梅澤 有・鈴木 倫太郎・中村 崇・浪崎 直子・日比野 浩平・渡邊 敦
●発行所／日本サンゴ礁学会 ●事務局／茅根 創 <kayanne@eps.s.u-tokyo.ac.jp>
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院 理学系研究科 地球惑星科学専攻 Fax: 03-3814-6358